

研究タイトル：日本近代文学史における武田泰淳、熊本の文学



氏名： 道園達也 / MICHIZONO Tatsuya E-mail: mitizono@kumamoto-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(文学)

所属学会・協会： 日本近代文学会、日本文学協会

キーワード： 日本近代文学史、武田泰淳、熊本の文学

技術相談
提供可能技術：

- ・
- ・
- ・

研究内容：

日本近代文学史における武田泰淳

武田泰淳の著作について、初出本文を底本とし、諸刊本の本文との異同を明らかにするとともに、注釈的方法を用いて表現の特質を検討することで、武田泰淳の日本近代文学史における位置づけを試みる。



初出本文 (例)

詩をめぐる風景

【図】本 『近代文学』昭和二十四年一月号（近代文学社、一九四九・一）
『武田泰淳作品集』第二巻（大日本雄弁会講談社、一九五〇・一）
『才子佳人・月夜都市』（新潮文庫（新潮社）、一九五七・四）
『新選現代日本文学全集』第二十七巻武田泰淳集（筑摩書房、一九七〇）
『武田泰淳全集』第一巻（筑摩書房、一九七〇）初版／一
『武田泰淳中国小説集』第一巻（新潮社、一九七四）一〇〇
『現代日本文学』24 武田泰淳集（筑摩書房、一九七七）一

【本文】
0 0 円き荷は小さき葉を浮べ
細き葉は軽き花を落す——杜甫

1 あたらしい主人をむかへた日、草堂はことに美しかった。

【異同】
1 草堂→草堂（④⑤）

2 草堂は瀧水西岸の、南に陽を受ける丘の上にあつた。丘は陽やけし3 だらかに、少しふくれあがつて河岸までつづいてゐた。そのあたりで4 激流に舟をあやつつて疲ははた旅人は、ホッと平安な心をとれしも5 として自分のけはしい旅路のなかほどに、このやうな樂園があつたか

【異同】
2 瀧水→瀧水（③④⑤）
陽→陽（④⑤）
旅人→旅人（③④⑤）

本文異同 (例)

（五頁）一〇
④
のやうに、な
れに、今まで
に眼をやり、

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）

名称・型番（メーカー）	